

現代における生活と衣服との関連について (第1報)

女子大生の被服購入状況の調査

荻野千鶴子・古川智恵子・豊田幸子

飯島則子・池田恭子

On the Relation between Modern Life and Clothes (I)

A Research in College Women's Purchasing Clothes

C. OGINO, C. FURUKAWA, S. TOYODA, N. IJIMA and K. IKEDA

緒 言

現代社会は情報化時代であり、衣生活においても、その使命を検討することなく、流行を追うことが非常に多く、殊に若い世代においては、その傾向が顕著であると考えられる。したがって、本報では女子大生の衣服購入状況等に関する実態調査及び意識調査を行ない、学生の購入及び流行に対する選択姿勢のあり方を検討し、現状に即応した衣生活運営への考え方へと導き、今後の被服教育への一助にしたいと、本研究を行なった。

方 法

質問紙法によるアンケート方法と聞き取り方法により実態調査を行なった。

1. 調査期間
昭和52年6月～10月
2. 調査地域
愛知・岐阜・三重の三県を主とする。
3. 調査対象
本学家政学部及び短大家政科学生500名を対象とした。
4. 調査用紙は“表1”に示す通りである。

結果および考察

1. アンケートの回収状況
アンケート配布部数は500部であり、回収率は100%であった。
2. 被服所持状況
 - (1) 和・洋服の所持率及び製作別割合
和・洋服の所持割合を“図1”に、その製作別割合を“図2”に示す。即ち、和・洋の所持率は、洋服83%に対し和服17%であり、その製作別割合は、洋服の80%が既製服であるのに対

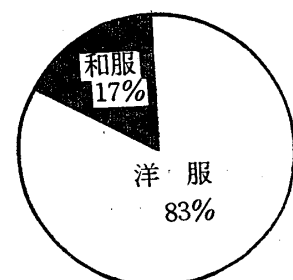


図1 和服洋服の所持割合

表1 調査用紙

I 衣服を購入する時、どんなことを考えて選びますか。Aグループの項目の中から選択順に5つ選び重要だと思われる順に符号を記入して下さい。Bグループはそれぞれの項目について記入して下さい。

符号	項目	順位	ジーンズ	スラックス	スカート	ブルジョア	ワンピース	スーツ・ツーピース
イ	価格	1						
ロ	品質表示	1						
ハ	機能性	2						
ニ	流行	2						
ホ	材質	3						
ヘ	デザイン	3						
ト	サイズ	3						
チ	縫製	4						
リ	メーカー	4						
ヌ	色・柄	4						
ル	耐用性	5						
オ	持っているものとの組み合わせ	5						
ワ	その他							

項目	ジーンズ	スラックス	スカート	ブラウス	ワンピース	スーツ・ツーピース
所持枚数						
必要枚数						
死蔵枚数						
最も適当な材質						

II 次の項目について適当と思われるものの番号を○で囲んで下さい。

	(ジーンズ)	(スラックス)	(スカート)	(ブラウス)	(ワンピース)	(スーツ・ツーピース)
(1) 品質表示を見て買いますか	5. 必ず見る 5 4 3 2 1	4. 少し見る 5 4 3 2 1	3. 見たり見なかったり 5 4 3 2 1	2. 余り見ない 5 4 3 2 1	1. 全く見ない 5 4 3 2 1	
(2) 流行について関心がありますか	5. 非常に感心がある 5 4 3 2 1	4. やや関心がある 5 4 3 2 1	3. よくわからない 5 4 3 2 1	2. 余り関心がない 5 4 3 2 1	1. 全く関心がない 5 4 3 2 1	
(3) 流行の服に対する着用意欲はありますか	5. 非常に着用したい 5 4 3 2 1	4. 少し着用したい 5 4 3 2 1	3. どちらでもない 5 4 3 2 1	2. 余り着用したくない 5 4 3 2 1	1. 全く着用したくない 5 4 3 2 1	
(4) メーカーを見て買いますか	5. よく見て買う 5 4 3 2 1	4. 少し見て買う 5 4 3 2 1	3. どちらでもない 5 4 3 2 1	2. 余り考えない 5 4 3 2 1	1. 全く考えない 5 4 3 2 1	
(5) 試着しますか	5. 何回も着てみる 5 4 3 2 1	4. 少し着てみる 5 4 3 2 1	3. 着たり着なかったり 5 4 3 2 1	2. 余り着てみない 5 4 3 2 1	1. 全く着ない 5 4 3 2 1	

III 次の質問についてそれぞれの語群の中から重要なものを1つ選び、その番号を下記の表の中に入れて下さい。

- (A) 購入について
- (1) 何を参考にしますか。 1. テレビ 2. ファッション誌 3. 雑誌 4. 新聞 5. 広告 6. その他
- (2) 動機について 1. 最も必要にせまられて 2. やや必要にせまられて 3. 流行しているから 4. 衝動的に 5. 安価だから 6. 色、デザインが気に入った時
- (3) 何を目的として一番多く取り入れますか 1. 街着として 2. 通学服として 3. 家庭着として 4. スポーツウェアとして 5. レジャーウェアとして 6. 働き着として
- (4) 場所はどこですか 1. デパート 2. 専門店 3. 小売店 4. スーパー 5. 問屋街 6. 行商
- (5) 計画を立てて購入しますか 1. 予算を細かく立てる 2. 手持ちのものとの組み合わせを考える 3. 目的を考えて買う 4. 着用場所を考えて買う 5. 所持枚数を考えて買う
- (B) 流行について
- (1) 何が一番多く取り入れますか 1. 街着 2. 通学服 3. 家庭着 4. スポーツウェア 5. 働き着
- (2) 何にポイントをおきますか 1. 体型 2. 個性 3. 色 4. デザイン 5. 材質 6. 機能性
- (3) 流行の服を着た時、どんな気分になりますか 1. 有頂天になる(人に見せたい) 2. 気分がよい 3. 気軽しい 4. 別に感じない
- (4) 流行おくれの服をどうしますか 1. 捨てる 2. 他人に譲る 3. そのまま保管する 4. リフォーム 5. そのまま着用する
- (5) 流行の服を着ている人を見てどう思いますか 1. カッコイイと思う 2. 全く何も感じない 3. カッコ悪いと思う 4. 自分も着てみたいと思う

種類	(A)							(B)				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ジーンズ												
スラックス												
スカート												
ブラウス												
ワンピース												
スーツ・ツーピース												

し、和服は14%と少なく、家庭製作、注文製作が86%とその大半を占めている。

(2) 所持枚数、死蔵枚数、必要枚数、平均枚数について

女子大生が所持している代表的な服種であるジーンズ、スラックス、スカート、ブラウス、ワンピース、スーツ・ツーピースの6種における所持枚数、死蔵枚数、必要枚数についての結果を“図3”に示した。すなわち“図3”は被服所持数の平均枚数を示したものであるが、所持数では6服種の中で、ブラウスが最も多く最高所持数38枚、最低3枚で、そのばらつきは非常に大きく平均14枚である。このうち平均死蔵枚数は6枚で、約半分が活用されていない状態である。次にスカートにおいても最高36枚、最低3枚、平均9枚であり、死蔵4枚とこれもブラウスと同様に、活用枚数は約半分で

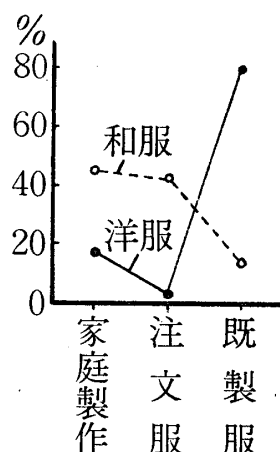


図2 和服洋服の製作別割合

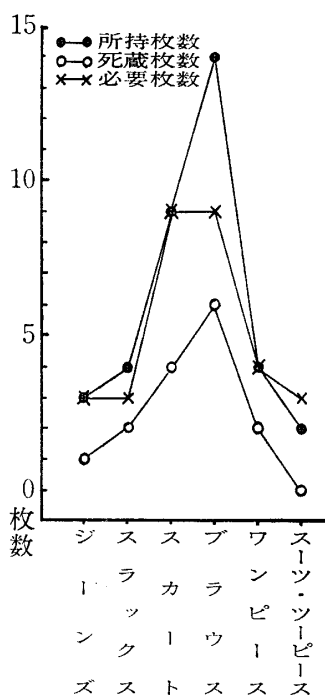


図3 所持枚数・死蔵枚数 必要枚数の平均枚数

ある。ジーンズは最高12枚、最低0枚で平均3枚である。死蔵は平均1枚見られる。いずれの服種においても所持枚数と死蔵枚数との関係は死蔵が所持の半数を占める同傾向がみられた。

さらに学生がそれぞれの服種について必要だと考える必要平均枚数は、ブラウス、スカートについては9枚、ワンピースが4枚、ジーンズ、スラックス、スーツは3枚であった。ジーンズ、スカート、ワンピースにおいては、所持枚数すなわち死蔵をも含む枚数と同数だけ必要だと考え、流行おくれになった衣服に対する補充を常に必要としている姿勢がみられた。ブラウスにおいては、所持枚数に比べて必要枚数が非常に少なくみられるが、これはブラウスにおける流行の変化が、激しい為、常に死蔵枚数が多くなり、したがって所持枚数も大となる。ブラウスにおいては、所持枚数と必要枚数の関係はこのような結果からだと考えられる。

3. 購入に関して

(1) 既製服購入の選択について

女子大生において最も購入枚数の多い既製服購入についての質問項目をさらに細かくみると、

1) 洋服購入の順位

洋服では、1位デザイン、2位サイズ、3位色・柄、4位価格、5位材質の項目順位であった。この結果を“図4-1”に示す。

2) 和服購入の順位

“図4-2”に示す通り和服では、1位模様が気に入った、2位価格が手頃である等の項目に出現が高くみられた。

3) 洋服の服種別購入順位

洋服の服種別購入順位を“図4-3”に示す。ワンピース、ツーピース等外出着においては、デザインが重視されており、ジーンズ、スラックス等では、サイズが最も重視され、次にデザインを挙げている。ジーンズでは他の服種と異なり、サイズ、デザイン、色・柄に次いで

メーカーが、選択の順位に挙げられている。

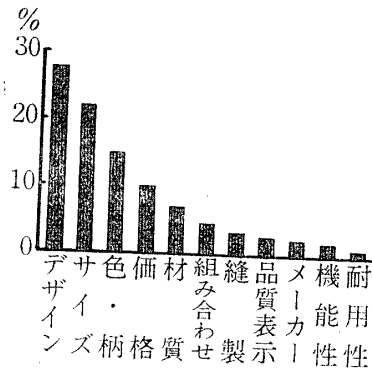


図4-1 洋服購入順位

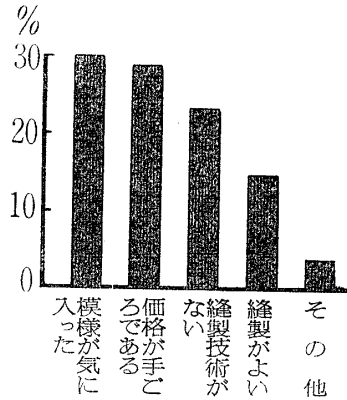


図4-2 和服購入順位

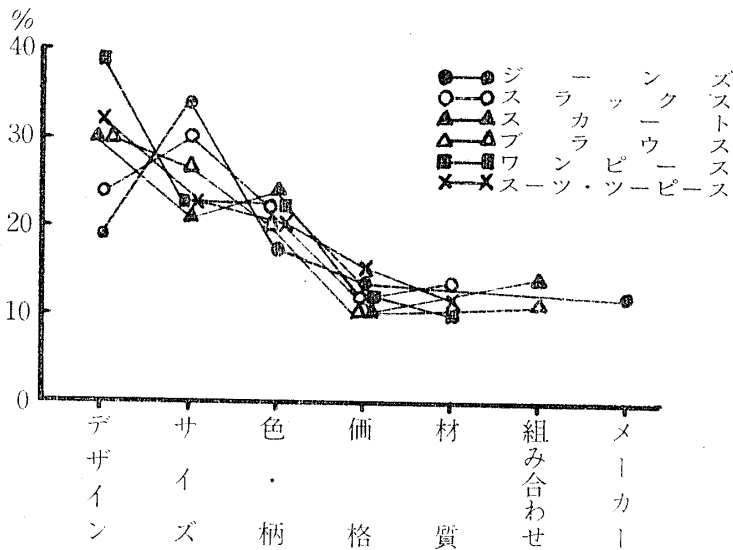


図4-3 洋服の服種別購入順位

4) 参考対象

“図5-1”に示す通り、既製服購入の際、何を参考にするかをみると、いずれの服種にお

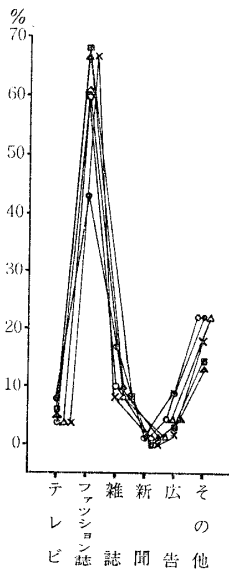


図5-1 参考対象

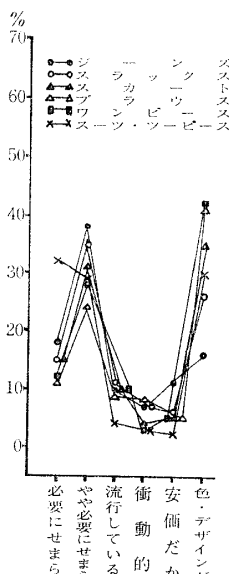


図5-2 購入動機

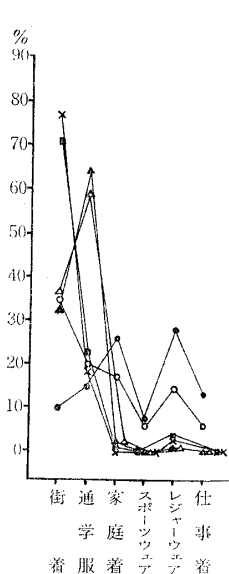


図5-3 購入目的

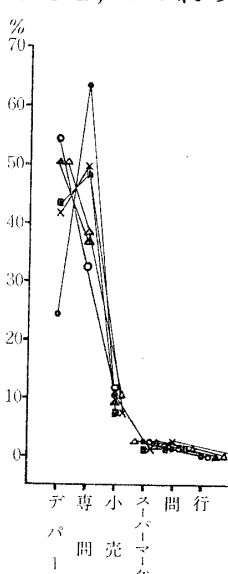


図5-4 購入場所

いても約70%がファッション誌を参考にしている。

5) 購入動機

購入動機は何であるかを“図5-2”に示す。必要にせまられて購入する者がどの服種においても約50%みられ、次に色、デザインがよいから購入する者がみられた。

6) 購入目的

購入目的は“図5-3”に示す通り、ツーピース、ワンピースは街着として、ブラウス、スカートは通学服として購入されており、ジーンズは広い目的分野で使用されていることがみられた。

7) 購入場所

購入場所を“図5-4”に示す。ジーンズは専門店が最も多く、他の服種ではデパート、専門店においてが80%を示し、大半がここで購入されていることがみられた。

(2) 服種別購入方法

1) 品質表示への関心度

服種別購入方法の品質表示への関心度を“図6-1”に示す。ジーンズにおいては、購入の際、品質を他の服種に比べあまり見ない傾向がみられるが、他の服種においては、必ず見ると答えている。これは概念的にジーンズの素材が木綿であるということが、すでに若い層に浸透しているからであると考えられる。

2) 服種別材質

“図6-2”に示す通り、ジーンズ、ブラウスでは綿が最も多かった。これらは肌に直接着装する為に、合繊ものや毛織物素材は吸湿性が悪く、着心地が悪く、衣服の手入れもし難い為、木綿を圧倒的に多く購入しているものと考えられる。外衣としてのツーピース、スラックスでは、成形を保つ点からも、素材的にウールが多く、以上の点から、服種別材質の選択には妥当性がみられた。

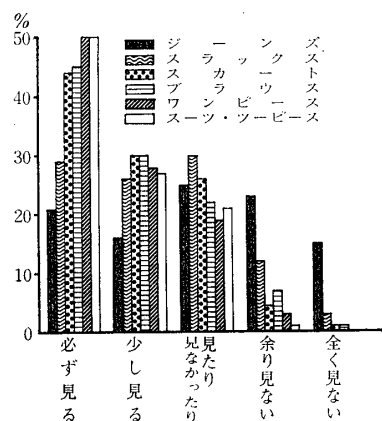


図6-1 品質表示への関心度

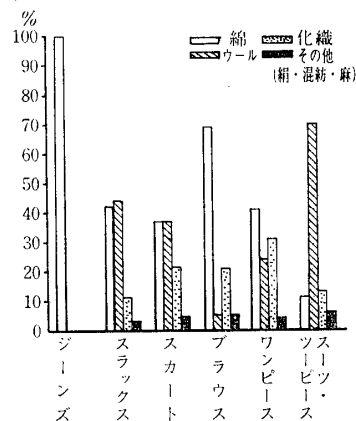


図6-2 服種別材質

3) メーカーへの関心度

メーカーへの関心度を“図6-3”に示す。ジーンズにおいては80%と高いメーカーへの関心度がみられるが、他の服種ではあまりみられなかった。これはファッション誌その他の情報により、メーカーによるサイズ構成及びジーンズカラーの微妙な差を知り、着用する自分の好みに合わせる為に、このようにメーカーへの関心度が高くなったものと考えられる。

4) 試着

購入時に試着して買うかを質問した結果，“図6-4”に示す通り，ブラウスはどの店においても試着不可能の状態なので出現は低く，他の服種では80%が試着すると答えている。

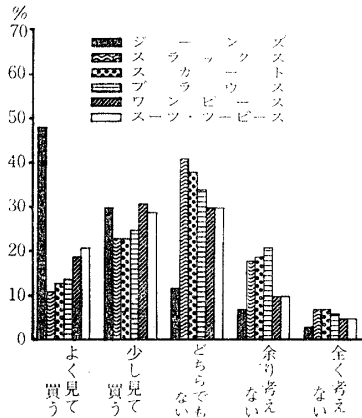


図6-3 メーカーへの関心度

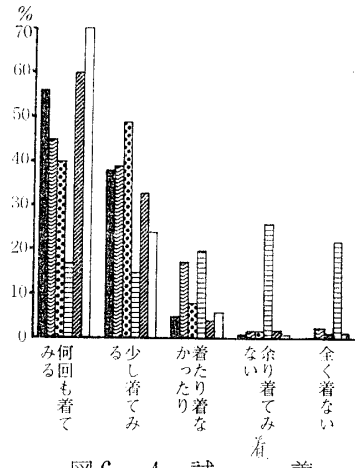


図6-4 試着

(3) 購入計画

購入計画を“図7-1”に示す。計画を立てて購入する層は76%みられるが，立てない層は24%みられた。立てて購入する層の中でも，どの服種も立てるが40%みられ，服種によって計画を立てる層は36%みられた。次にどのように立てるかを項目別に詳しくみたのが“図7-2”である。どの服種においても“予算を細かく立てる”の項目では非常に低率である。これは経済を親に依存する学生である為に，このような傾向がみられたものと考えられる。ブラウス，スカート，スラックスにおいては，手持ちの物との組み合わせを考えて購入する者が多くみられた。これは，二部式形態のものは流行も手軽に取り入れ，自分の好みに合わせた組み合わせを楽しむことも出来る為であると考えられる。

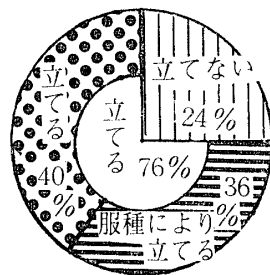


図7-1 購入計画

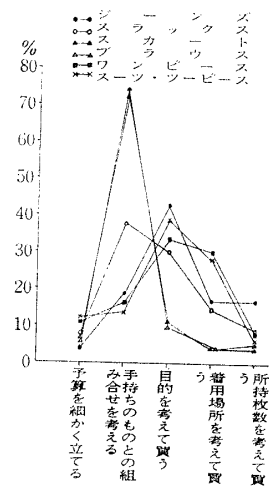


図7-2 購入計画

4. 流行に関して

(1) 関心度について

流行に対する関心度を“図8-1”に示す。やや関心がある33%に対し，非常に関心があるが67%と2倍の高率を示し，無関心は0であり，流行に対しては高関心の傾向がみられた。

(2) 流行の服種別変化

昭和51年度から過去4年間の流行に対する関心度の服種別変化を“図8-2”に示す。昭和48年から51年までの時代は，いわゆるファッションの代表格とみなされたジーンズが，どの服種よりも強い関心度を示していることが認められたが，51年度に入ると流行への関心度は急激に低下し，衣服としての定着の状態を示す傾向がみられた。

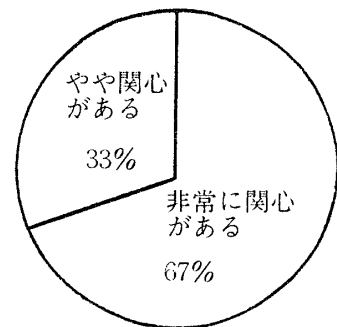


図8-1 関心度

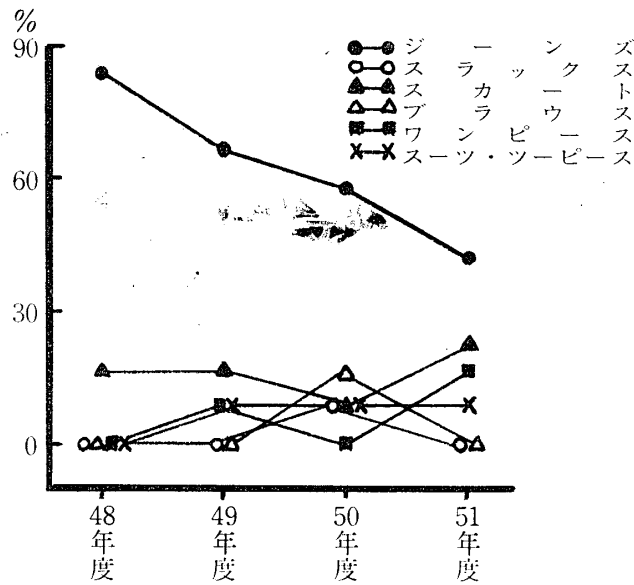


図8-2 服種別変化

(3) 流行服への着用意欲

調査対象総学生の各服種の流行服への着用意欲では、全体の80%の層が着用意欲を示していることがみられた。これを“図9-1”に示す。

(4) 流行の取り入れ方

流行の取り入れ方を“図9-2”に示す。街着としてのスーツ、ツーピースに最も高く流行を取り入れているのがみられ、次に通学服としてのブラウス、スカートに、ジーンズでは、あらゆる場合に広く取り入れている傾向がみられた。

(5) 流行のポイント

流行のポイントを何におくかを“図9-3”に示す。ワンピース、ブラウス、スーツ等はデザイン、次にスラックス、ジーンズ等の体型カバーの困難な服種は、体型を第1に考慮している傾向がみられる。

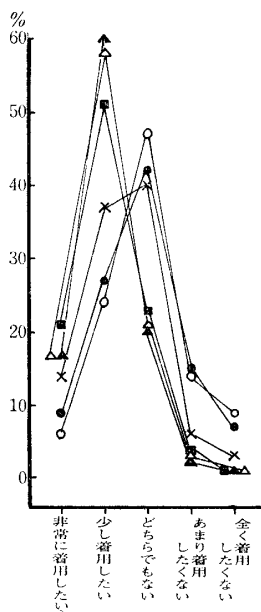


図9-1 着用意欲

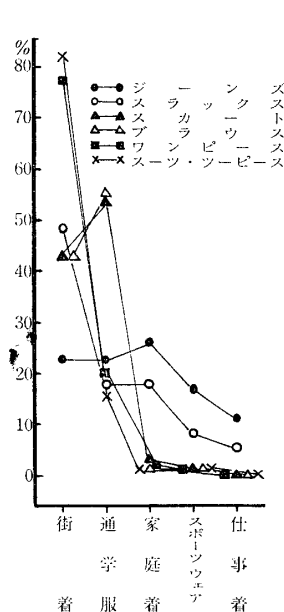


図9-2 取り入れ方

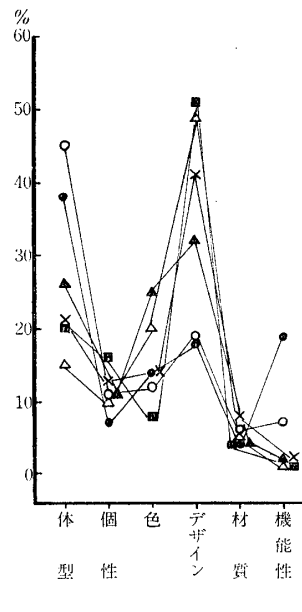


図9-3 ポイント

5. 被服所持数による意識差

(1) ジーンズ所持数による意識の比較

ジーンズが昭和51年より過去4年間においてファッションとして、最も若い層の間で高い流行への関心を示し、購入割合も多い傾向がみられたので、ジーンズ所持数の多い、大グループと、少ない小グループとの間で、どのような意識の差がみられるか比較した。すなわち被験者層のジーンズ所持数8枚～13枚の多い者50名を大グループとし、1枚のみの所持者50名を小グループとした。比較する服種としては、女子大生の所持枚数の最も多かった、スカート、ブラウスを例にとり上げた。その所持枚数、死蔵枚数、必要枚数による比較を“図10”に示す。

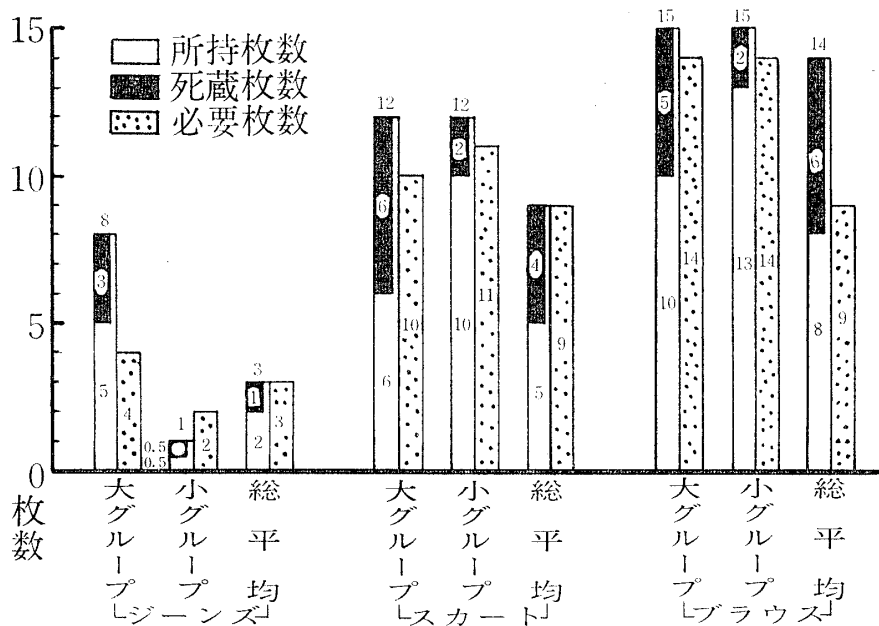


図10 ジーンズ所持数による意識の比較

1) ジーンズ

ジーンズの大グループ平均所持枚数は8枚、小グループは1枚と大差がみられ、総平均枚数は3枚である。死蔵枚数は大グループ3枚、小グループ0.5枚、総平均枚数は1枚で、大グループでは所持枚数の約1/3が死蔵であり、総平均の所持枚数とほぼ同一の傾向がみられた。又、必要枚数は大グループ4枚に対し小グループ2枚で、総平均枚数は3枚である。

2) スカート

スカートでは、両グループ共に平均所持枚数は同じ12枚であるが、死蔵枚数は大グループはその半分の6枚、小グループは2枚と、ここでも大きく差がみられた。これは大グループにおいてはファッションへの関心が強い為、ジーンズの活用が多く、したがってスカートの死蔵枚数が大となったものと考えられる。小グループでは、ジーンズの活用枚数は0.5枚と少ないために、必然的にスカートの活用枚数が10枚と所持枚数に等しい程、大となったものと考えられる。

3) ブラウス

ブラウスにおいても、大・小グループの所持枚数は共に15枚であったが、死蔵枚数は大グループ5枚、小グループ2枚と差がみられ、全体として流行を追う大グループの方が、小グループに比較して死蔵枚数が多い傾向がみられた。

(2) 購入時の計画性

購入時の計画性について、ジーンズの所持数大・小両グループの比較を“図11”に示した。

“計画を立てて購入しない”という項目では、大グループの方が、ジーンズ、スカート、ブラウスの3服種共に小グループに比べ高率を示した。計画を立てて購入する者を項目別にさらに細かくみると、“予算を細かく立てる”ことは両グループ共に全く、していない傾向がみられた。その他、“手持ちの物との組み合わせを考える”、“目的を考える”、“着用場所を考える”、“所持枚数を考える”のいずれの項目においても、小グループの方が大グループに比べ高率を示す傾向がみられた。

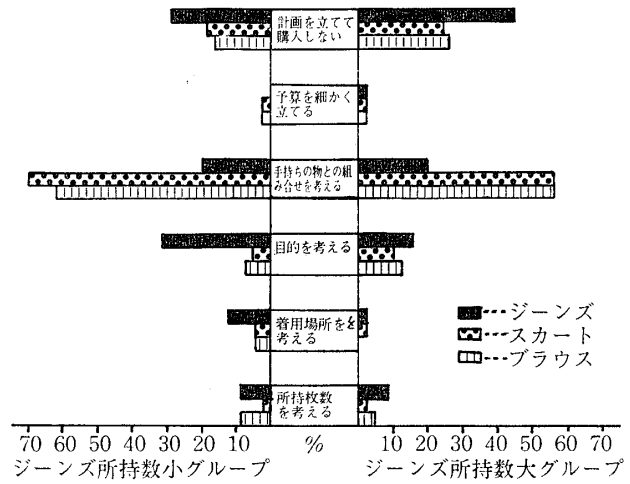


図11 購入時の計画性

(3) 流行おくれの服の処理方法

流行おくれの服の処理方法を“図12”に示す。3服種ともに、“そのまま保管する”が最も

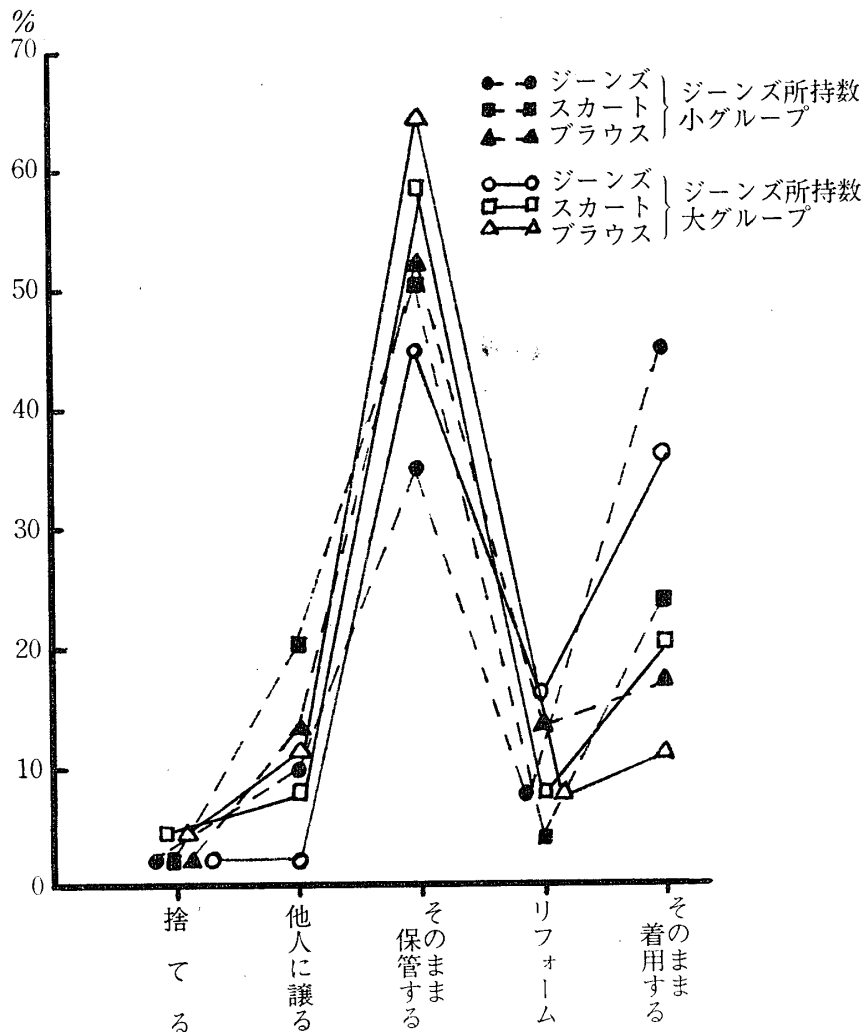


図12 流行おくれの服の処理方法

高率を示し、次に“そのまま着用する”、“他人に譲る”の項目順位に処理方法がみられたが、さらに細かく項目内における出現率の差をみると、“そのまま保管する”の項目でも、大グループが小グループに比べすべて高率を示しており、小グループの方が、“そのまま着用する”あるいは“他人に譲る”等の活用が大グループより高い傾向がみられた。

要 約

以上女子大生の被服購入状況の調査結果をまとめると下記のようなものである。

1. 学生の所持する衣服では、洋服がそのほとんどを占め、その製作割合は、洋服は80%が既製服であり、和服は家庭、注文製作がその大半を占め対象的にみられた。

2. 流行への関心度では、女子大生は高い関心を示し、無関心は0で既製服購入の選択順位についても、和洋服ともに、サイズ、品質表示、価格などの実質面よりむしろデザイン、色・柄などの流行面の視点を第1位に選択し、流行への関心の高さがみられた。又、過去4年間の服種別流行への関心度では、ジーンズが顕著に高くみられた。

3. ジーンズ所持数大・小グループの2群において意識を比較した結果、大グループは服の所持数が多くても、死蔵枚数が多く、活用枚数は少ない。又、購入時の計画性についても、小グループに比較して、無計画の傾向がみられた。

流行おくれの服の処理でも、大グループはそのまま保管することが多く、小グループでは、そのまま着用したり、他人に譲ったりと活用範囲も広く、大グループに比較して効果的な衣生活運営の傾向が認められた。

参 考 文 献

- 1) 古川智恵子他：名古屋女子大学紀要，23, 75～83, (1977)
- 2) 金子富美：家政学誌，19, 5, 376～379, (1968)
- 3) 北田総雄：衣生活研究，4月号，22～24, (1977)
- 4) 酒井豊子他：衣生活研究，5月号，29～32, 衣生活研究会 (1977)